

## 安 全 デ ー タ シ ー ト (SDS)

作成 平成 10年 7月 23日  
最終改訂 平成 28年 2月 18日

### 1.【化学物質等及び会社情報】

#### 製品

製品の名称 アルタンサニタイザー

#### 供給者情報

会社名

アルタン株式会社

住所

東京都大田区東糀谷3-11-10  
マーケティング室 開発企画課

電話番号

03-3743-5705

FAX番号

03-3743-5706

緊急連絡先

同上

### 2.【危険有害性の要約】

#### GHS分類

#### 健康に対する有害性

急性毒性(経口)

区分4

皮膚腐食性・刺激性

区分1C

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性

区分1

皮膚感作性

区分1

発がん性

区分1A

生殖毒性

区分1A

特定標的臓器・全身毒性(単回曝露)

区分2(全身毒性)

特定標的臓器・全身毒性(反復曝露)

区分2(肝臓)

#### 環境に対する有害性

水生環境有害性(急性)

区分1

水生環境有害性(長期間)

区分2

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、

上記以外の項目は、現時点で「分類対象外」、「分類できない」又は「区分外」である。

#### 絵表示又はシンボル



注意喚起語 危険

#### 危険有害性情報

飲み込むと有害

重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

発がんのおそれ

生殖能又は胎児への悪影響のおそれ

全身毒性の障害のおそれ

長期にわたる又は反復ばく露による肝臓の障害のおそれ

水生生物に非常に強い毒性

長期継続的影響により水生生物に毒性

#### 注意書き 【安全対策】

使用前に取扱説明書を入手すること。

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

ミストを吸入しないこと。

取扱い後は手をよく洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

環境への放出を避けること。

保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

#### 【救急処置】

火災の場合には適切な消火方法をとること。

吸入した場合 空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

飲み込んだ場合 口をすすぐこと。無理して吐かせないこと。

気分が悪い時は医師に連絡すること。

眼に入った場合 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて

容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

皮膚に付着した場合 多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。

皮膚(又は毛髪)に付着した場合 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚

を流水／シャワーで洗うこと。

曝露またはその懸念がある場合

医師に連絡／診断／手当を受けること。

ただちに医師に連絡すること。

皮膚刺激または発しん(疹)が生じた場合

医師の診断／手当を受けること。

汚染された衣服を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

漏出物を回収すること。

気分が悪い場合

医師の診断、手当を受けること。口をすすぐこと。

#### 【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

#### 重要な徴候及び想定される非常事態の概要

人の健康に対する有害な影響

吸入した場合、刺激性がある。

皮膚に触れた場合、刺激性がある。

目に入った場合、刺激性がある。

飲み込んだ場合、口腔・食道・胃部の灼熱感がある。

環境への影響

大量に流出した場合は、水生生物に対して影響を及ぼす。

物理的及び化学的危険性

不燃性であり、引火・発火性などの危険性はない。

### 3.【組成・成分情報】

単一製品・混合物の区別 混合物

成分及び含有量

化学名	含有量(wt%)	CAS No.	化審法番号	PRTR法
ポリオキシエチレンアルキルエーテル	非公開	非公開	非公開	非該当
ジアルキルジメチルアンモニウム塩	非公開	非公開	非公開	非該当
脂肪酸アルカノールアミド	非公開	非公開	非公開	非該当
金属イオン封鎖剤	非公開	非公開	非公開	非該当
エタノール	0.1～2	64-17-5	2-202	非該当
染料	非公開	非公開	非公開	非該当
水	非公開	7732-18-5	-	非該当

内分泌かく乱作用を有すると疑われる化学物質：環境省「環境ホルモン戦略計画SPEED'98」(2000年11月版)で示された物質(65種類)を使用しない。

### 4.【応急処置】

目に入った場合 直ちに流水で15分以上洗い流す。コンタクトレンズは外す。何らかの異状を感じたときは直ちに医師の処置を受ける。

皮膚に付着した場合 流水でよく洗い流す。衣服や靴などに付いたときは、すみやかに脱ぎ皮膚を流水でよく洗い流す。何らかの異状を感じたときは直ちに医師の処置を受ける。

吸入した場合 ミストを吸い込んだときは、直ちに新鮮な空気の風通しのよい場所に移動し、鼻をかんだり、よくうがいをする。何らかの異状を感じたときは、直ちに医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合 直ちに水で口の中を洗浄し、コップ1～2杯の水または牛乳を飲ませて、直

その他 ちに医師の処置を受ける。無理に吐かせようとしない。意識のないときは口から何も与えない。ただし、牛乳アレルギーの人には牛乳を与えない。使用中、目に異状を感じたり、せき込んだり、気分が悪くなったときは、直ちに使用をやめてその場から離れ、洗眼、うがいをする。その後、直ちに医師の処置を受ける。

いずれの場合も、医師への受診時には製品または安全データシートを持参する。

#### 5.【火災時の措置】

消火剤 水、泡、粉末、二酸化炭素などの一般消火剤が使用できる。  
 使ってはならない消化剤 情報なし  
 特有の危険有害性 情報なし  
 消火方法 周辺火災の場合は速やかに安全な場所に移す。  
 移動ができない場合は、風上より容器周辺に散水して冷却する。  
 消火を行う者の保護 消火作業では保護具を着用する。

#### 6.【漏出時の措置】

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置  
 保護具(保護メガネ、ゴム手袋、ゴム長靴、保護衣、保護マスク等)を着用する。  
 漏出場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。  
 環境に対する注意事項  
 雨水溝、河川、海上などに多量に排出されないように注意する。  
 封じ込め及び浄化の方法及び機材  
 スクイジーなどを用いてできる限り空容器などに回収する。  
 回収した跡、または回収できないものは、多量の水で十分に洗い流す。

#### 7.【取り扱い及び保管上の注意】

取扱い 洗浄作業や洗浄剤容器の取扱い時は必ず、保護具(保護メガネ、ゴム手袋、ゴム長靴等)を着用する。  
 使用時は換気を良くする。  
 体調の悪いときは使わない。  
 キャップを開けるときに液が飛び出すことがあるので注意する。また、容器を移動するときにはキャップをしっかり閉める。緩んでいると液が跳ねて目や皮膚に付くことがある。  
 飛散した液やミストを吸い込んだり、目に入らないようにする。  
 用途以外に使用しない。  
 他の薬剤、洗浄剤などとは絶対に混ぜない。  
 他の容器に移し替える場合は、弊社指定の専用容器を使用する。誤飲等事故の恐れがあるので、飲料用の容器を含む他の容器に移し替えたり小分けしない。  
 食品ならびに人体には使用しない。  
 食器及び調理器具類は、5秒以上流水ですすぐ。  
 うすめた液を長期間保存すると、変質することがあるので、使用のつどうすめる。  
 倒したり、こぼしたりしないように注意する。  
 使い終わった容器は、十分に洗ってから処理する。  
 保管 直射日光、40℃以上、多湿および凍結のおそれのある場所を避けて密閉して保管する。  
 子供の手の届かないところに保管する。  
 横倒しの状態で輸送および保管しない。

#### 8.【暴露防止及び保護措置】

管理濃度				設定なし
許容濃度	エタノール100%の場合	日本産衛学会 ACGIH	STEL	設定なし(2014年版) 1,000ppm(2009年版)
設備対策	ミストや蒸気が滞留しないように局所換気装置または全体換気装置を設置する。 取扱い場所の近くに洗眼、身体洗浄のための設備を設ける。			
保護具・呼吸器の保護	保護マスク			
目の保護	保護メガネ			
皮膚・身体の保護	ゴム長靴、保護衣、ゴム手袋			

#### 9.【物理的及び化学的性質】

状態	液体	
色調	淡紅色透明	
臭気	特異臭	
沸点	100°C以上	
融点	0°C以下	
蒸気圧	データなし	
蒸気密度	データなし	
比重	1.005 (25°C)	
pH	7.0 (原液、25°C)	
引火点	なし(不燃物)	
燃焼または爆発範囲	なし	
水分配係数	データなし	
自然発火温度	データなし	
分解温度	データなし	
蒸発温度	データなし	
その他	ヒ素	0.05mg/L以下 (JIS K 3362)
	重金属(Pbとして)	1.0mg/L以下 (JIS K 3362)
	メタノール	1mg/g以下 (JIS K 3362)
	蛍光増白剤	不検出 (JIS K 3362)
	全リン酸塩	不検出 (JIS K 3362)

## 10.【安定性及び反応性】

- 反応性 通常取り扱い条件においては危険な反応を起こす恐れはない。  
 化学的安定性 通常取り扱い条件（屋内、常温）においては安定である。  
 危険有害反応可能性 データなし  
 避けるべき条件 直射日光、40°C以上、多湿、凍結条件下、開放状態  
 陰イオン系界面活性剤（台所用中性洗剤など）を含む薬剤・洗浄剤との接触  
 混触危険物質 ポリカーボネート樹脂、ABS樹脂など  
 危険有害な分解生成物 データなし

## 11.【有害性情報】 エタノール100%の場合

- 急性毒性 経口 使用原料の加算式判定  
 LD<sub>50</sub> 300~2000mg/kg 区分4  
 皮膚腐食性・刺激性 危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有 区分1C  
 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有 区分1  
 皮膚感作性 危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有 区分1  
 発がん性 危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有 区分1A  
 生殖毒性 危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有 区分1A  
 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有 区分2  
 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有 区分2

## 12.【環境影響情報】 エタノール100%の場合

- 生態毒性  
 水生環境有害性(急性) 使用原料の加算式判定 区分1  
 水生環境有害性(長期間) 使用原料の加算式判定 区分2  
 その他  
 COD 300000mg/kg(原液)

## 13.【廃棄上の注意】

- 残余廃棄物 下水道以外の河川等、公共水域への排出は絶対に避ける。  
 少量の場合は、水で十分に希釈して排出する。  
 多量の場合は、都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者にて委託処理をする。

## 汚染容器、包装

使い終わった容器は、水で十分に洗ってから処理する。  
内容物／容器の廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。

## 14.【輸送上の注意】

## 国際規制

国連番号 1760  
品名(国連輸送名) その他の腐食性物質(液体)(他の危険性を有しないもの)  
国連分類 クラス8(腐食性物質)  
容器等級 III  
海洋汚染物質 該当する  
MARPOL73/78及びIBCコード ばら積み輸送されない製品のため対象外  
HSコード 3402.20

## 国内規制

危険物船舶運送及び貯蔵規則に該当するので、定められている輸送方法に従う。

## 輸送の特定の安全対策及び条件

輸送前に容器の破損、腐食、漏れなどが無いことを確認する。  
荷役作業は丁寧に行い、容器を破損しないように取り扱う。  
転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。  
直射日光、40℃以上、多湿、凍結条件下、開放状態での輸送は避ける。  
水濡れを避ける。

## 15.【適用法令】

労働安全衛生法 施行令 別表第9 名称等を通知すべき有害物 61(エタノール)  
危険物船舶運送及び貯蔵規則 腐食性物質  
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 産業廃棄物

## 16.【その他の情報】

## 記載内容の問い合わせ先

アルタン株式会社  
住所 東京都大田区東糀谷3-11-10  
担当部門 マーケティング室  
電話番号 03-3743-5705  
FAX番号 03-3743-5706

## 改訂履歴

作成 平成 10年 7月 23日  
改訂 平成 18年 2月 27日  
最終改訂 平成 28年 2月 18日

## 参考文献

製品安全データシートの作成指針(改訂版)、日本化学工業協会(2001)  
GHS対応ガイドライン、(財)日本化学工業協会(2012)  
JIS Z 7252:2009 GHSに基づく化学物質等の分類方法、日本規格協会  
JIS Z 7253:2012 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル、  
作業場内の表示及び安全データシート(SDS)、日本規格協会  
労働安全衛生関係法令集、労務行政研究所  
16313の化学商品、化学工業日報社  
化学品安全管理データブック、化学工業日報社  
公害防止の技術と法規(水質編)、産業公害防止協会  
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善促進の進め方、日本規格協会  
GHS分類結果データベース、製品評価技術基盤機構HP  
GHS対応モデルラベル・モデルSDS情報、厚生労働省職場のあんぜんサイトHP

## 注意

・この情報は新しい知見及び試験等により改正されることがあります。

- ・記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。
- ・注意事項は通常の実用を前提としたものですが、特別な取扱いをする場合には、新たな用途・用法に適した安全対策を講じた上で実施願います。
- ・すべての化学品には未知の有害性があり得るため、取扱いには細心の注意が必要です。
- ・ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願い申し上げます。